

交通事故を起こさないために必ず守ってほしいこと

夜間はハイビームを使いましょう
夜間は、歩行者の発見が遅れてしまい、事故が発生しやすいです。ハイビームに切り替え、十分に視界を確保しましょう。

適切な速度と車間距離を保ちましょう
道路状況や天候に応じて、速度・車間距離を調整し、急ブレーキや追突事故などを防ぎましょう。

運転中は前後左右の安全を確認しましょう
特に交差点や駐車場など、視界が制限される場所では信号機や標識、歩行者などを見落とさないよう十分に確認しましょう。

シートベルトを正しく着用しましょう
全座席の人が、シートベルトを着用したことを確認してから、出発しましょう。

めざせ交通事故ゼロのまち

▶ 問い合わせ 総務課 ☎ 73-3000



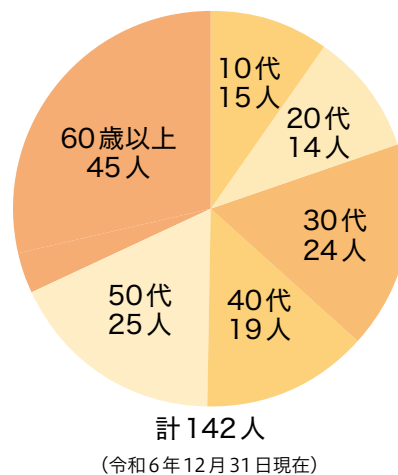
昨年の市内の交通事故発生件数は、前年と比較して大幅に増加しています。
春を迎え、外出が増えるこの時期に、一度交通安全ルールやマナーを確認し、安心安全なまちをめざしましょう。

市内で発生した交通事故の特徴

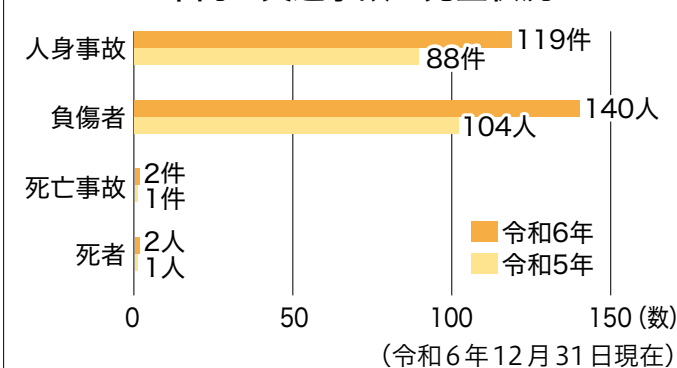
- ・高齢者による事故
- ・交差点内での事故
- ・昼間帯の事故

また、事故の内訳は、「車両の追突」が最も多く、次に「交差点などでの車両同士の出会い頭の事故」、「安全不確認などによる左右折時の事故」の順となっています。

令和6年 年齢別交通事故死傷者数



市内の交通事故の発生状況



高齢者ドライバーの皆さんへ

運転中は、認知・判断・操作を行います。加齢とともに身体機能は、年々低下していきます。運動能力や判断能力の低下などによって生じる危険を避け、ゆとりを持った運転を心掛けましょう。

運転に不安を感じたときは

アクセルとブレーキの踏み間違いなどがきっかけで、運転に不安を感じたときは、安全運転相談ダイヤル「☎8080」までご相談ください。
また、最寄りの警察署や運転免許センターでも運転に関する相談ができます。

免許証の自主返納をした人に支援制度があります

特典

- ・県内の公共交通機関や小売店などで、割引などのお得なサービスが受けられます。
- ・福祉タクシー利用券8,000円分を交付します。



▲支援の詳細はこちら

通勤ラッシュや登下校の時間



長距離走行や体調の悪いとき



夕暮れ時や夜間、雨の日



初めて通る道や高速道路



こんなときは特に注意が必要!

新生活が始まる3〜4月は特に注意が必要です

環境の変化などで、不慣れた交通利用による交通事故や新入学(園)児などの事故が心配されます。
子どもだけで行動する機会が増える、新小学1年生は、歩行中の交通事故の危険性が高い年齢です。
事故原因の多くは「飛び出し」で、上級生と一緒の登校時よりも、低学年だけでの下校時が交通事故に遭いやすくなっています。基本的な交通安全ルール・マナーを見直して、子どもたちの安全を守りましょう。

小学生の皆さんへ

守ろう! 交通安全ルール

- 1 信号を守ろう
信号が赤色のときは、渡らないで待とう。
信号が青色のときでも、車が来ていないか、「右・左・右」を見てから渡ろう。
- 2 横断歩道を渡る
横断歩道の手前では、必ず一度立ち止まる。
まわりの安全をしっかりと確認しよう。
渡るときは大きく手を挙げよう。
- 3 道路には絶対に飛び出さない
道路やその近くでは遊ばない
- 4 道路やその近くでは遊ばない



大人の皆さんへ

子どもの安全を見守ろう

- 1 子どもの見本になりましょう
子どもは大人の行動をよく見ています。交通安全ルールやマナーを守り、良いお手本を見せるようにしましょう。
- 2 子どもの目線になりましょう
大人には分かっていない危険が、子どもには見えていないことがあります。子どもと同じ目の高さで、見通しが悪いか、通行量が多くないかなど、安全を確かめましょう。
- 3 具体的に約束をしましょう
どのように安全を確かめるべきかを具体的に子どもたちと一緒に考えたり、話をしたりして、ルールを決めましょう。
- 4 「かもしれない運転」をしましょう
「車の陰に子どもがいるかもしれない」、「建物の脇から急に飛び出してくるかもしれない」など、万が一を予測しながらの運転を心掛けましょう。

万が一事故を起こしたときは
110番や119番へ

人身事故、物損事故、けがの有無などにかかわらず、真っ先に救助活動を行い、安全を確保して、必ず警察に連絡しましょう。

